

別記書式2

教員要件及び教育内容等の自己評価書様式

令和8年5月1日時点

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学科等の名称	専任教員数						非常勤 教員	専任教員 一人あたりの在籍 学生数	備考 基準数は、 R9年4月より 新指定規則の適用
	専攻 科長	専任 教員	教員	計	基準数	うち 言語聴 覚士数			
専攻科言語 聴覚士養成 課程	1人	3人	-人	4人	4人	4人	32人	7.5人	
計	1人	3人	-人	4人	4人	4人	32人	-	

※教員の区分（学科長、主任教員等）は、各養成所の実情に応じて変更すること。

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	言語聴覚士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価2-1】養成所指導ガイドラインとの連動状況

分野(基礎・専門 基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員			
				氏名	職名 (専任・兼任)		
専門基礎	人体のしくみ・疾病と治療	基礎医学1	7コマ	佐藤幸子	兼任		
		基礎医学2	14コマ	上間清司ほか	専任および兼任		
		臨床医学1	14コマ	山本滋ほか	兼任		
		臨床医学2	7コマ	小川雅美	兼任		
		臨床医学3	7コマ	八木昌人	兼任		
		臨床医学4	7コマ	指田純	兼任		
		臨床医学5	7コマ	森一将	兼任		
		臨床歯科学	7コマ	森一将	兼任		
		音声・言語・聴覚医学1	14コマ	木村俊靖	兼任		
		音声・言語・聴覚医学2	14コマ	二藤隆春	兼任		
		音声・言語・聴覚医学3	14コマ	八木昌人	兼任		
		専門基礎	心の働き	臨床心理学	14コマ	望月由紀子	兼任
				生涯発達心理学	14コマ	本田りえ	兼任
学習・認知心理学	14コマ			野口普子	兼任		
心理測定法	7コマ			中山友則	兼任		
専門基礎	言語とコミュニケーション	言語発達学	7コマ	小杉裕子	専任		
		言語学	14コマ	佐々木充文	兼任		
		音声学	14コマ	佐々木充文	兼任		
		音響学	28コマ	辻慎也	兼任		
専門基礎	社会保障・教育とリハビリテーション	社会保障・リハビリテーション・教育	7コマ	関根麻美ほか	兼任		
専門	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	14コマ	上間清司ほか	専任		
専門	言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学	14コマ	上間清司ほか	専任		
専門	失語・高次脳機能障害学	失語・高次脳機能障害学	28コマ	上間清司	専任		
		失語・高次脳機能障害演習	28コマ	上間清司	専任		
専門	言語発達障害学	言語発達障害学	28コマ	小杉裕子	専任		
		言語発達障害演習	28コマ	小杉裕子	専任		
専門	発声発語・摂食嚥下障害	発声発語障害学	35コマ	畠山恵ほか	専任および兼任		

	学	発声発語障害演習	14コマ	畠山恵	専任
		小児発声発語障害学	7コマ	小杉裕子ほか	専任および兼任
		摂食嚥下障害学	28コマ	畠山恵	専任
		摂食嚥下障害演習	14コマ	畠山恵	専任
専門	聴覚障害学	聴覚障害学	28コマ	志磨村早紀	専任
		聴覚障害学支援概論	7コマ	志磨村早紀ほか	専任および兼任
		聴覚障害演習	28コマ	志磨村早紀ほか	専任および兼任
専門	地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学	14コマ	畠山恵ほか	専任
専門	臨床実習	臨床実習1	2単位	畠山恵ほか	専任
		臨床実習2	13単位	畠山恵ほか	専任

※適宜行を追加すること。

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成所指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を おおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、 成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施している。	4
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
言語聴覚士所属施設・機関・事業所の見学（1週間×2施設）	1年 8月	臨床実習 1	1年 8月
		臨床実習1	1年 8月
評価実習（4週間）	2年 6月～7月	臨床実習2	2年 6月～7月
総合実習（8週間）	2年 7月～9月	臨床実習2	2年 7月～9月

※適宜行を追加すること。

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めている。	4
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防におおむね努めている。	3
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に十分に努められていない。	2
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めていない。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	専攻科言語聴覚士養成課程 自己点検委員会
委員名（委員長）	上間 清司
委員会等の開催頻度	毎月
委員会等の取り組み内容	学生による授業評価の分析
	学生の学修到達状況等の共有
	カリキュラム見直し等の審議
	その他、専攻科運営に関する審議
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html ）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	自己点検委員会
	委員構成等	専任教員全員
	改善の仕組みの実際	次年度のシラバス作成にあたり、各開講科目間の連続性と関連性を見直し、授業内容および方法を検討している。

【自己評価4-3】自己点検、自己評価及びその評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

毎年1回以上の自己点検及び自己点検を実施し、自己評価と学生の資格取得状況を踏まえて、授業方法の修正を行っている。